

宮城県パラ陸上競技協会の取組み

当協会は、宮城県内のパラ陸上クラブ、支援学校有志により設立した団体です。

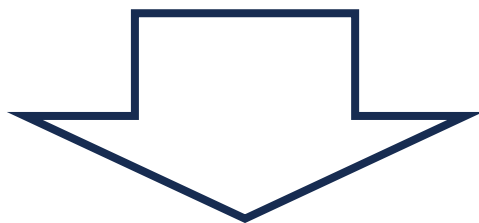
立ち上げには、宮城陸上競技協会のご協力、ご指導により実現できました。

2023年より、宮城陸上競技協会加盟団体となり、県内パラ陸上に関わる団体の連携、「陸上競技を通しての共生社会実現を目指し」活動。

活動の経過

- 2015年 ・宮城県陸上選手権出場に向け、県内のパラ陸上クラブ4団体、支援学校1校で宮城県パラ陸上競技連絡会設立活動開始。
- 2016年 ・宮城県陸上競技選手権(国体予選会)にパラ選手招待 男女知的選手各8名出場
- 2017年～・1000キロメートル縦断リレー参加(2018年・2019年)
※東京都スポーツ文化事業団・東京都障害者スポーツ協会協力依頼により
- 2018年～・全国都道府県駅伝宮城県選手選考会にパラ種目追加
※都道府県対抗パラ駅伝選考会として開催
- 2019年 ・宮城県陸上競技選手権(国体予選会)にレーサー種目追加、立位障害対象に変更
- 2021年 ・パラ陸上記録会開催(14名参加)
- 2022年 ・第2回・第3回宮城県ユニバーサル陸上記録会開催(大会名称変更)
- 2023年 ・宮城県パラ陸上競技協会設立
※パラ陸上クラブ6団体、一般クラブ1団体、支援学校有志4校
・宮城陸上競技協会加盟(協力団体)理事・評議員選出
・第4回宮城県ユニバーサル陸上記録会
- 2024年 ・第5回宮城県ユニバーサル陸上記録会兼宮城野原パラチャレンジ記録会
※日本陸連公認大会・非公認大会同時開催

実現したいこと



- ・陸上競技を通しての共生社会の実現
- ・障害者が陸上競技を楽しめる環境づくり
- ・パラ選手の育成と競技力向上

1. パラ陸上普及活動の取組み

宮城県陸上競技協会の協力により
宮城県陸上選手権招待レース



知的障害選手招待から、立位の部(肢体、聴覚、視覚、知的)、
レーサー の部に変更
※立位の部選考、県内ランキング男女16名出場

一新設

利府町の宮城スタジアムで開かれる県陸上選手権（7月8、9日）に、初めて知的障害者の男女100名以上が各1レースに加わる。障害者スポーツは大会が限られ、これまで出場機会がほとんどなかった。選手たちは「新たな目標ができた」と喜ぶ。

宮城パラ陸上競技連絡会の要望に、県陸上選手権を主催する宮城陸上競技協会が応えた。レースは9日に行われ、県内のクラブチームや支援学校の知的障害者ベストタイム上位の男女8人が頂点を目指す。

県立支援学校岩沼高等学校の陸上部からは3人が出場。2年高橋成輝さん（16）と3年伊藤一真さん（17）は共に「自己ベ

男女100名に各8人出場

「自己新出したい」

ストを上回る記録を出したい」と意気込み、1年菅野新菜さん（15）は「緊張するけど頑張りたい」と練習に励む。

これまでは春の全日本障害者スポーツ大会の予選会しか出場機会が無かった。浜中一道顧問（33）は「陸上部全員が出られるわけではないが、県選手権出場は子どもたちの大きな自信、目標になる」と期待を寄せる。

知的障害者の選手は介助が必要な場合があり、一般の大会に参加するのは難しい。大会が少ないため、社会に出てから目標を失って陸上をやめてしまうケースも多いという。

連絡会の藤島秀一事務局長は「大会が増えることで障害者スポーツを知らない人たちが陸上競技と出合っきっかけになればいい」と話す。宮城陸協の三浦弘則会長は「健常者と同じ条件でのレースは刺激になる。今後も継続し、リレーなど種目を増やせるかどうか検討したい」と応援する。



第1回招待レース



今大会初実施のpara女子100mを制した仙台中田中の加藤（中央）

2. 都道府県駅伝選考会の参加



全国都道府県駅伝宮城県選考会にパラ1500mが種目追加され、県内の支援学校、クラブチーム選手が県を代表する選手と同じ競技会に出場する機会を頂いた。翌年からは、男女別で開催。

これを契機に市民クラブで活動、標準記録を突破し、県選に出場する選手も現れた。

※一般クラブメンバーとして県駅伝、男鹿駅伝等出場。

東京都障害者スポーツ協会等の協力依頼より

3. 1000kmリレー駅伝への参加



4. 公認大会に出場選手の参加

県選手権招待が契機となり、陸連選手登録、一般公認大会に出場する選手が増加する。

当初、日本陸連競技規則で行う事が可能なパラ選手限定であったが、後に車いす選手、視覚障害選手の出場も可能となった。

現在は、中体連・高体、一般競技会にも出場している。複数の車いす選手も登録、公認競技会に出場させて頂いている。

(レーサーについてはパラの部設定)

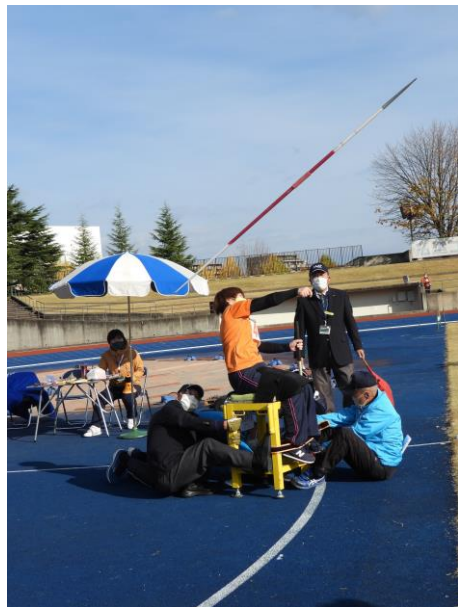


5. 宮城県ユニバーサル記録会開催

2021年より、宮城陸上競技協会の協力によりパラ選手記録会開催。翌年2022年より、中・高陸上部指導者の協力申し出により共生社会を目指したユニバーサル記録会として開催。

2024年5回大会より陸連公認大会と非公認大会を同時開催、県内、小・中・高・大学・一般、パラ選手(85名)480名に出場頂いた。(競技役員、公認審判員83名、ボランティア10名、障害者スポーツ指導員7名)。第3回大会より、他県パラ選手にも出場頂く。

宮城県ユニバーサル記録会開催



車イスリレーに出場する常盤木学園陸上部

6.練習の機会を増やす取り組み

中・高陸上部、一般市民クラブでの練習協力



7.練習環境整備

仙台市陸上競技場常設設備

パラ選手が安全、安心
して楽しめる環境を共
に考える。



車イス、投てき台固定器具設置



聴覚障害者光スタートシステムの導入

活動を通して

誰しもが陸上競技を楽しみ、スポーツを通して共生社会を目指し、これからも進んで行きます。